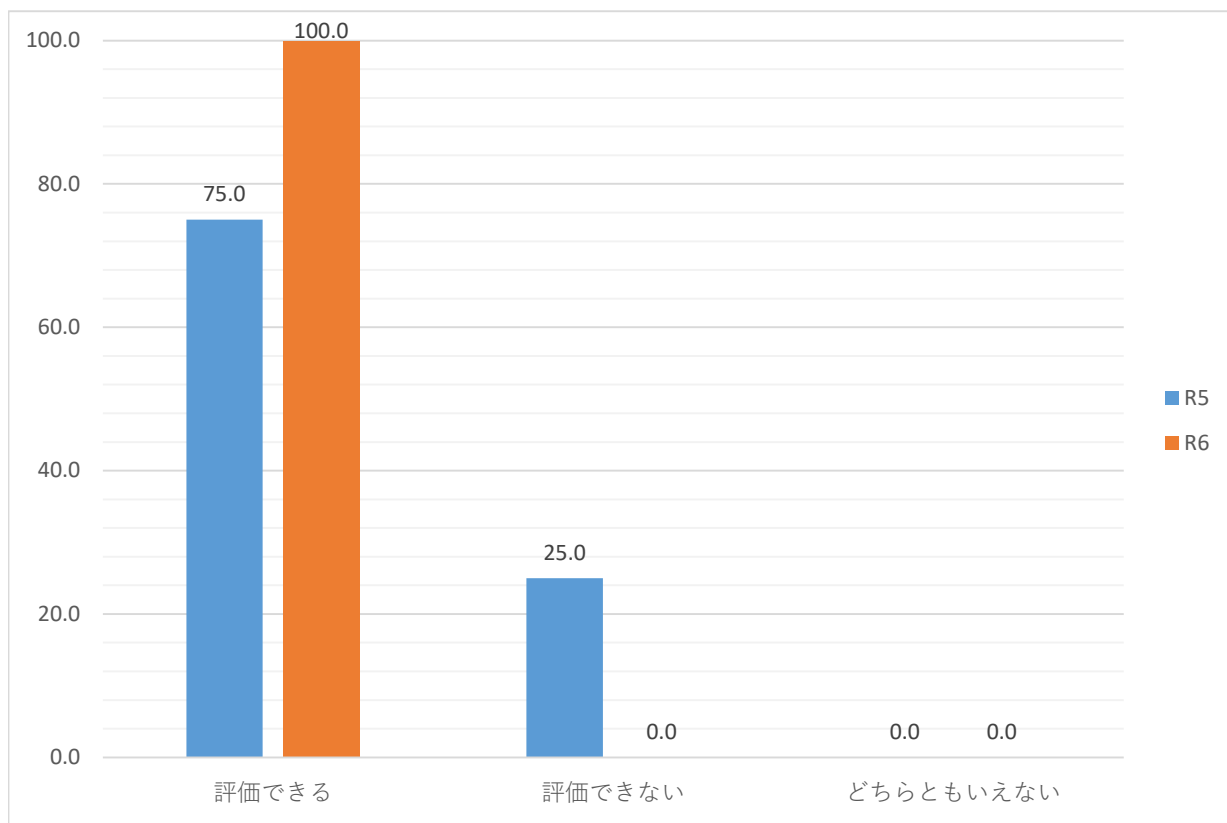


令和6年度 高野山こども園評価委員会評価

1 日々の保育の改善について

(1) 保育士は保護者とコミュニケーションを深める。



	(人数)				
	評価できる	評価できない	どちらでもない		合計
R5	6	2	0		8
R6	9	0	0		9

①保護者とのコミュニケーションを大切にするため、子どもの登降園やバス乗降の時間の活用、個人懇談を実施するなど保育士が積極的に保護者と会話をする時間を増やす。

- ・保育参観、クラス懇談会を実施し、日々担任が行っている保育の様子を保護者に見ていただいた。クラス懇談会では保育の感想や意見をいただき、担任と保護者、保護者同士のコミュニケーションを図ってきた。また、個人懇談を実施し、保護者に子どもの姿を伝え、子どもの成長や子育てについて話した。

- ・園での活動や子どもの様子をお伝えするためにも引き続き写真を掲載していきます。

②子どもの送迎時、保護者に声をかけ、子どもの保育室等での様子を見てもらっている。また、保護者が子どもの様子を見たいと希望した時は、その都度見てもらうようにしている。

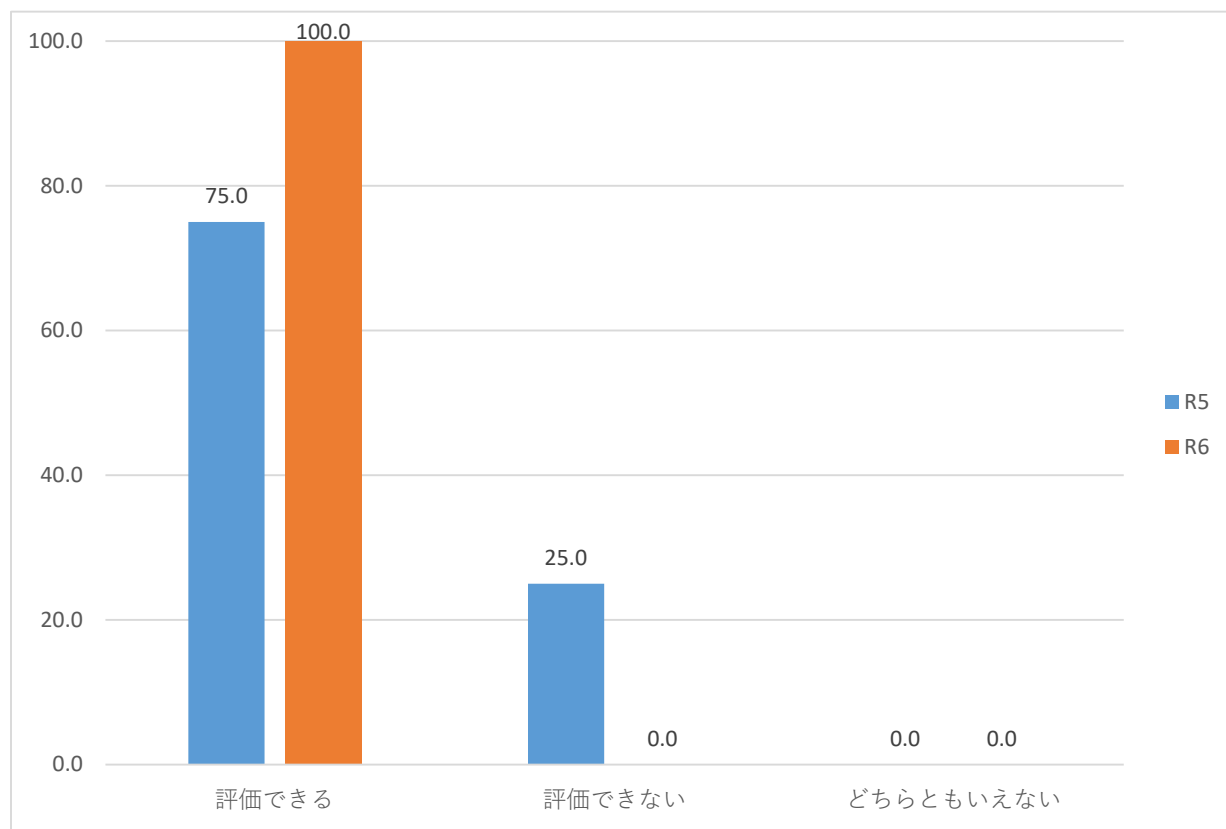
- ・子どもの送迎時、保護者に声をかけ、子どもの保育室等での様子を見てもらっている。また、保護者が子どもの様子を見たいと希望した時は、その都度見てもらうようにしている。

③一人ひとりの子どもの様子を連絡帳に毎日記入し、子どもの些細な様子でも保護者に伝えていく。また、家庭での様子も伝えていただけるよう連絡帳を活用する。

- ・連絡帳を活用し、子どもの1日の生活の様子を具体的に記入するよう努め、保護者からは家庭での様子を伝え合い情報交換しながら信頼関係を築くよう努める。

1 日々の保育の改善について

(2) 子どもを中心に置いた、子どもが楽しめる体験を取り入れる。



(人数)

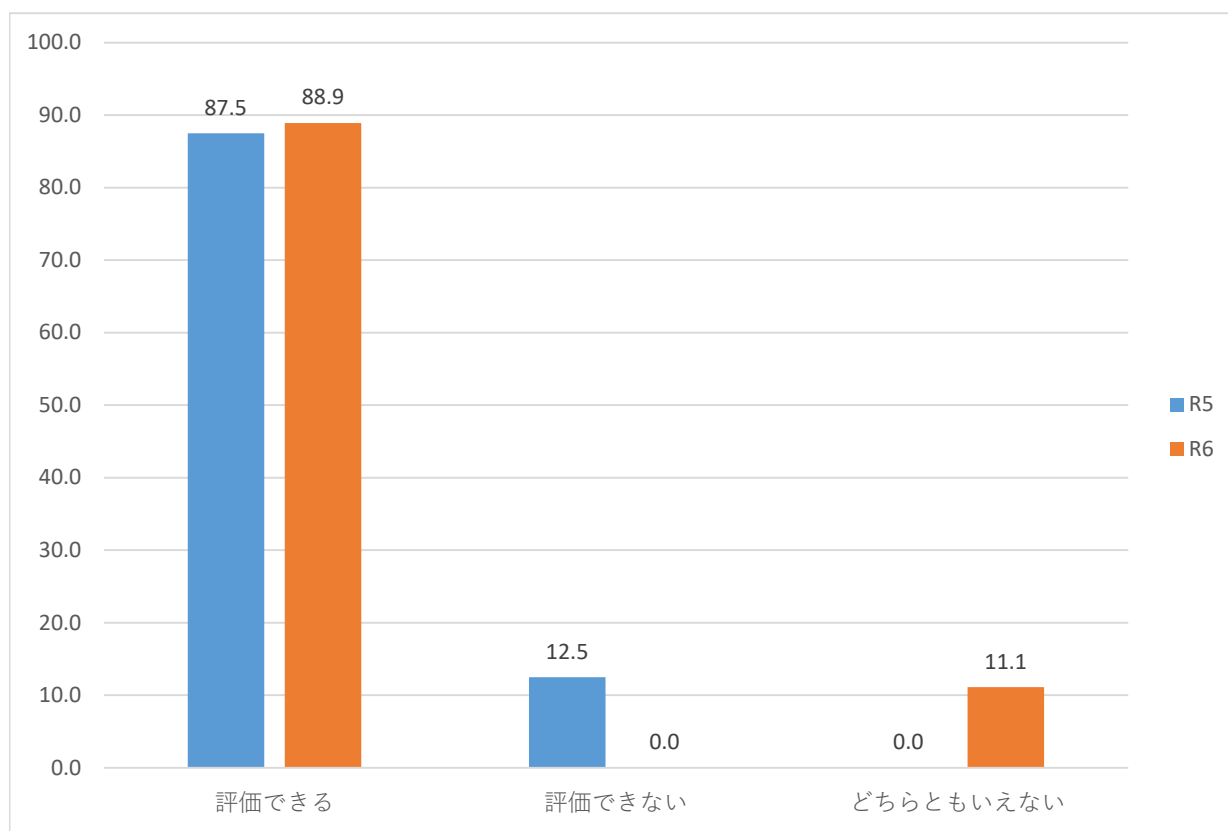
	評価できる	評価できない	どちらでもない			合計
R5	6	2	0			8
R6	9	0	0			9

子どもが楽しんだ体験を通して親子の会話を促す。また、保護者と家庭での様子を共有することで、保育士と保護者のコミュニケーションを増やし、信頼関係を築く。

・親子の会話を促すために、子どもが楽しいと思える活動（異年齢児活動・たいそう・リズム等）や行事（園外保育・お泊り保育・夕涼み会・運動会・クリスマス会等）を計画し実施してきた。また、行事等を通して保育士と保護者のコミュニケーションを築いてきた。

・5歳児は小中学生との交流、仕事場見学や買い物体験等地域に出かけ、子どもの心を動かす直接体験を取り入れてきた。直接体験を積み重ねることで子どもは様々な「学び」を得ることができるので、来年度も、より多くの直接体験を取り入れたいと考えている。

1 日々の保育の改善について
(3) 保護者との連携体制を構築する。



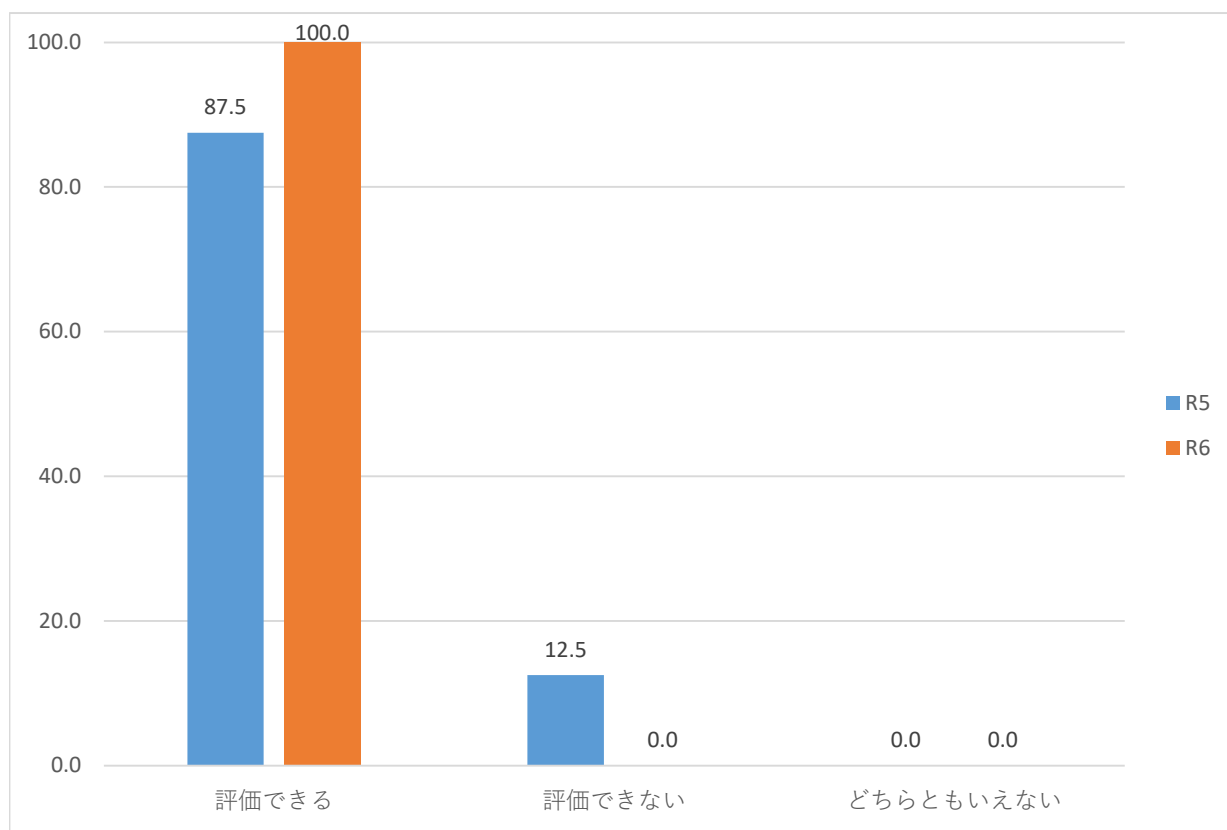
(人数)

	評価できる	評価できない	どちらでもない			合計
R5	7	1	0			8
R6	8	0	1			9

保護者の意見や要望を伝える場を年2回以上設け、保護者の保育や園運営に対する保護者の意見を取り入れやすいようにする。

・保育参観や誕生会参加時に、保育の様子を見てもらい、クラス懇談会や個人懇談会を通じて子育てについて共有しています。

1 日々の保育の改善について
(4) 日常的に園見学を受け入れる。



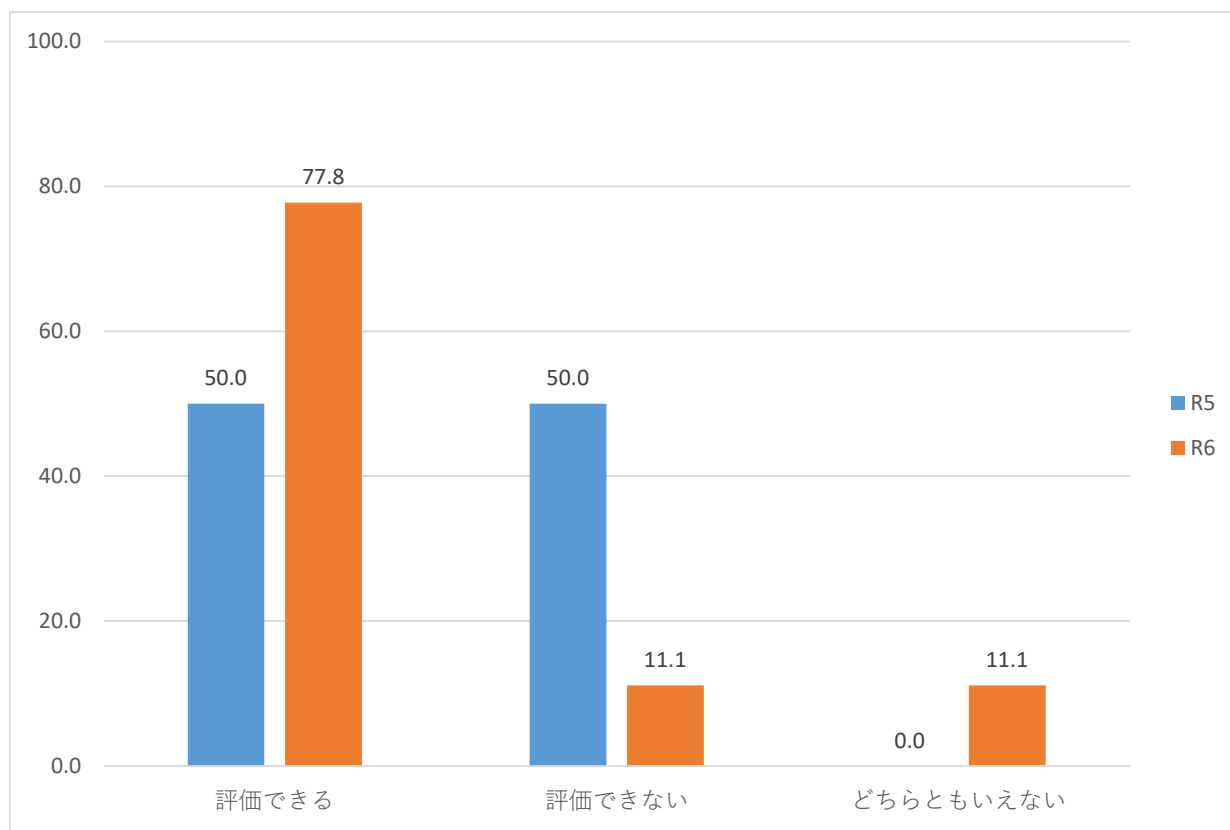
(人数)

	評価できる	評価できない	どちらでもない			合計
R5	7	1	0			8
R6	9	0	0			9

保護者、地域の方にいつでも園を見学してもらえるように見直す。ただし、子どもの安全を確保するため、保護者以外の方は事前申込みとする。

- ・保護者や地域の方から園見学の希望がある場合は、積極的に受け入れた。
- ・給食参観と試食会を企画し、子どもの食べている様子や給食時の保育者の関わりや配慮の様子を見ていただき、また食育の観点から栄養士から献立についての説明を行なった。

1 日々の保育の改善について
 (5) 第三者の視点による保育の見直し



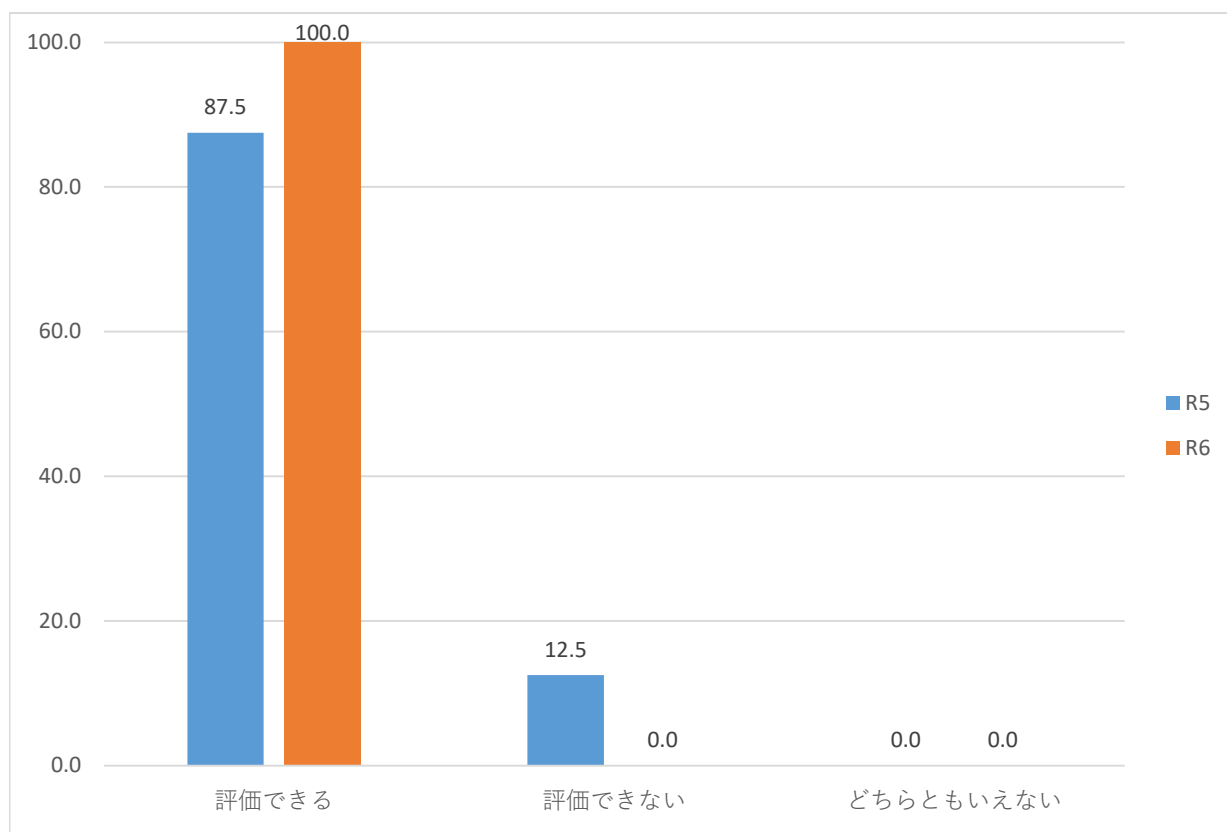
	(人数)				
	評価できる	評価できない	どちらでもない		合計
R5	4	4	0		8
R6	7	1	1		9

毎月実施している職員会議に高野山学園本部の職員や町職員の参加を依頼し、保育について幅広く議論する。また、県教育委員会などの保育に精通した第三者から年1回以上助言・指導してもらい、日々の保育の改善につなげる。

・毎月2回、園長を含め職員会議を実施している。学園本部や町の職員の参加を実現させ2, 3カ月に一回のペースで会議を開催。給食会議においては、月1回 町の職員を交えて行っている。

・評価委員の視察訪問を受け、昨年度からの比較をいただき良い方向に改善が進んでいる。

1 日々の保育の改善について
(6) 子どもへのかかわり方の見直し。



(人数)

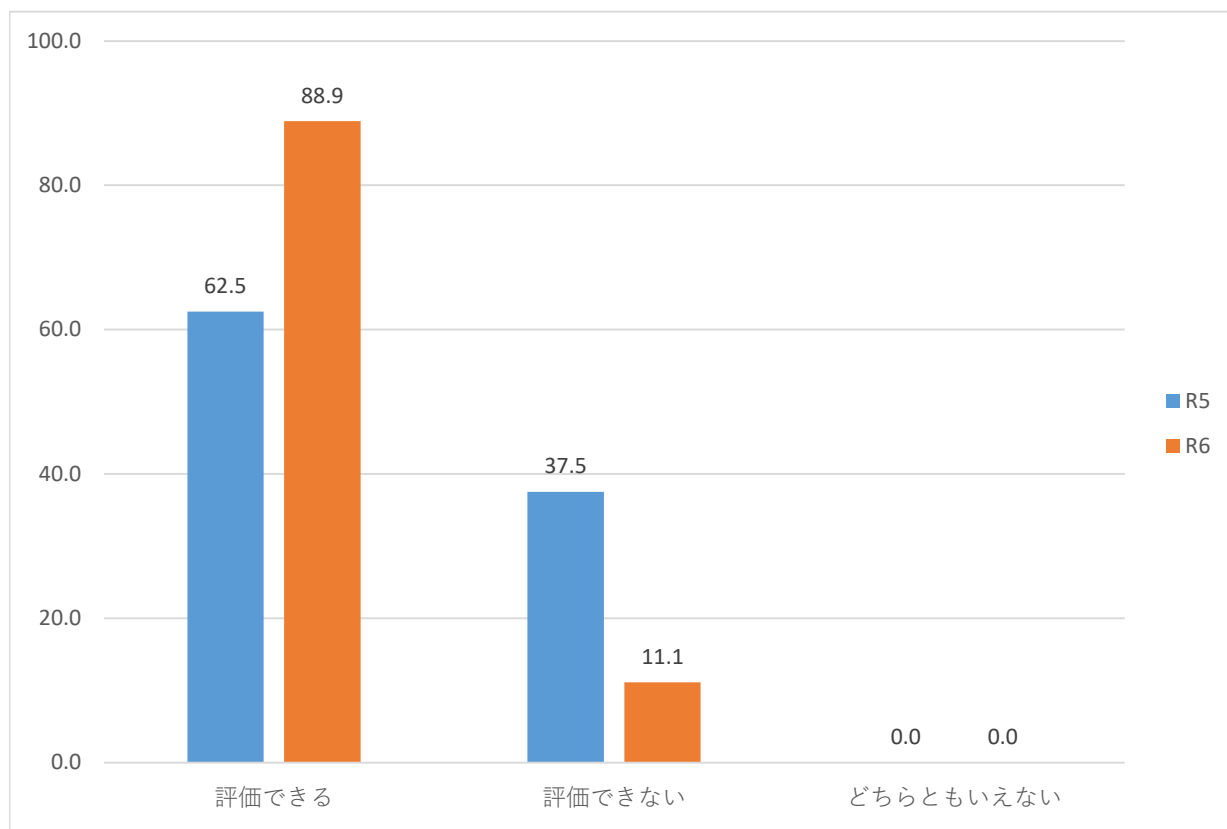
	評価できる	評価できない	どちらでもない			合計
R5	7	1	0			8
R6	9	0	0			9

職員間(サポート職員を含む)における「保育」に対する共通認識を図るため、保育主任や管理職は、各担当が立案する園の保育目標に沿った保育計画(年間計画案・月案・週案・日案)を確認し、保育を把握、指導する。

・令和5年度より、有資格者の園長代理を配置し、担任が作成した年間指導計画に基づく、月案、週案、日案を園長代理が確認し指導につなげ、保育の質向上に努めている。

2 保育士個々のスキルアップについて

(1) 園内研修を実施する。



						(人数)
	評価できる	評価できない	どちらでもない			合計
R5	5	3	0			8
R6	8	1	0			9

①園内での問題を共有すると共に保育の質の向上のため、園内研修を1年に6回以上実施する。

(6月5歳児・7月4歳児・8月3歳児・11月2歳児・12月0・1歳児・2月5歳児)

- ・課題別研修を実施。保育者各々が自己評価表し、保育士同士の意見交換を行い、保育の質の向上に努めた。

②サポート職員が、日々の保育を理解し子育て支援員の役割を果たすことができるように、保育主任等による月1回以上園内研修を実施する。

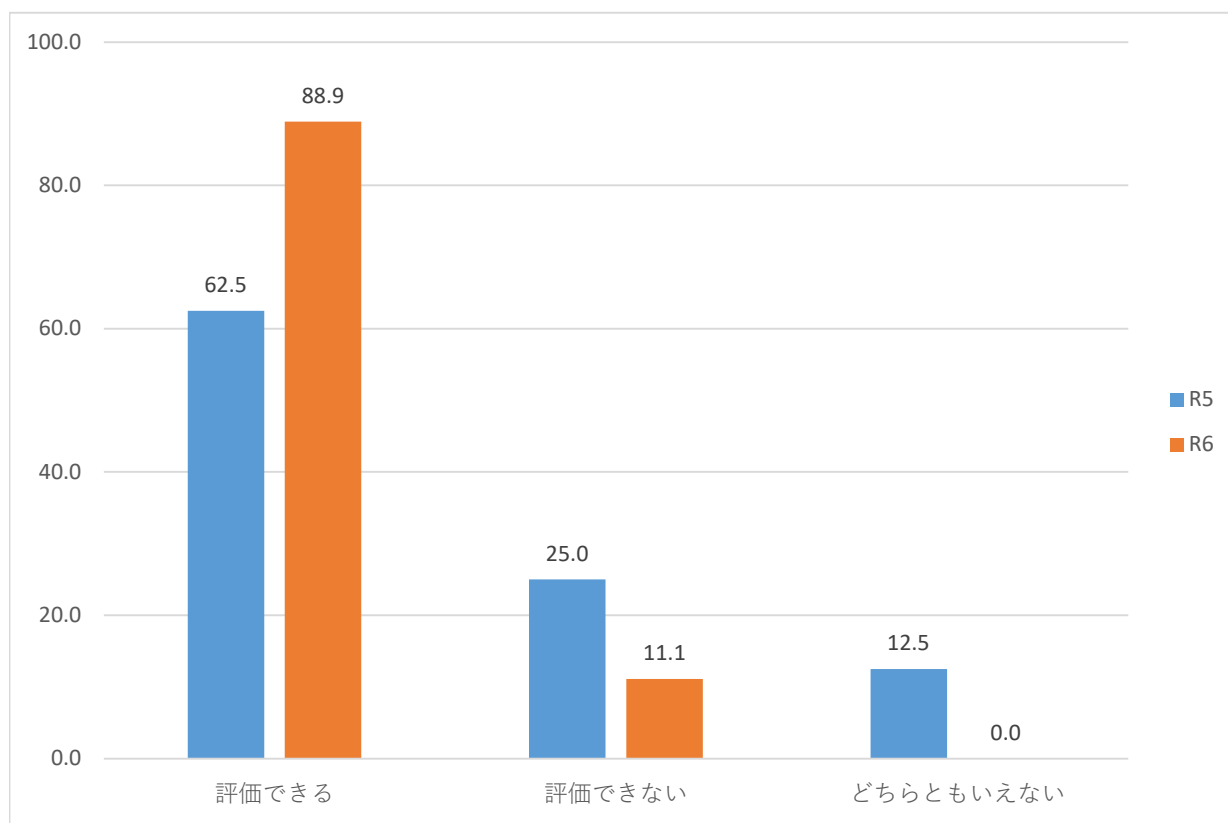
- ・サポート職員に、必要な場面で保育士が助言を行っている。
- ・保育主任や看護師によるサポート職員との打ち合わせや研修を月1回実施している。

③子どもへの発達支援と研修プログラムを実施する。

- ・町保健師と連携を取りながら、発達支援を行い、必要に応じて職員会議等で園内研修を行ってきた。

2 保育士個々のスキルアップについて

(2) 園外研修を共有し、個々のスキルアップを図る。



(人数)

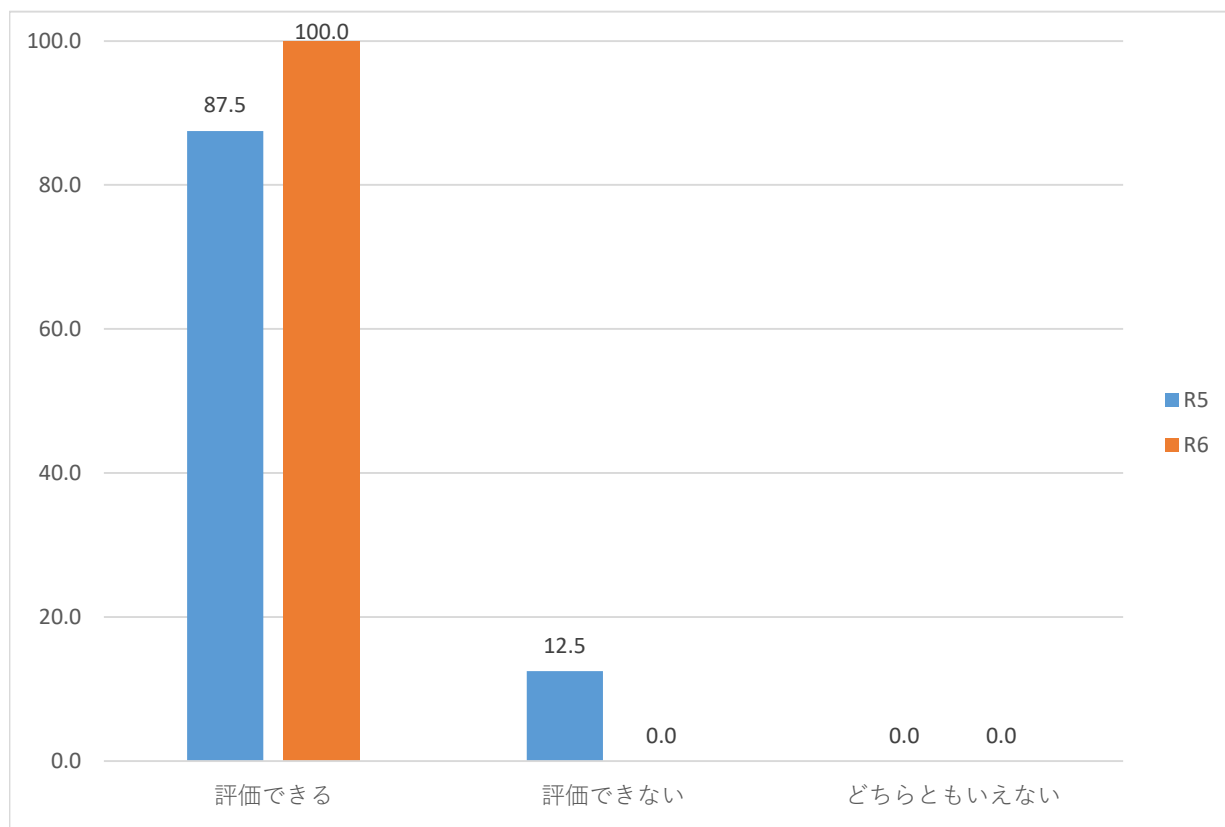
	評価できる	評価できない	どちらでもない			合計
R5	5	2	1			8
R6	8	1	0			9

外部研修の内容報告を職員会議で行い、自分たちの保育を見直し、研修内容を反映することで個々のスキルアップにつなげる。

・昨年以上にキャリアアップ研修や県主催の合同研修に積極的に参加し、その内容を職員会議で共有することで、保育士のスキルアップにつなげるよう努めてきた。

2 保育士個々のスキルアップについて

(3) 保育を振り返る時間を設ける。



	(人数)				
	評価できる	評価できない	どちらでもない		合計
R5	7	1	0		8
R6	9	0	0		9

①個々の保育士の質の向上を行うため、令和5年度から、日々の保育を振り返る時間を毎日16：30から設ける

- ・バスの添乗、早朝・延長・預かり保育等で振り返る時間が取れなくなっている。しかしながら、連絡ノートを活用し、全職員が情報共有できるように改善を図った。

②保育主任等の管理職は保育士の指導を行い、改善するまで言い続ける。

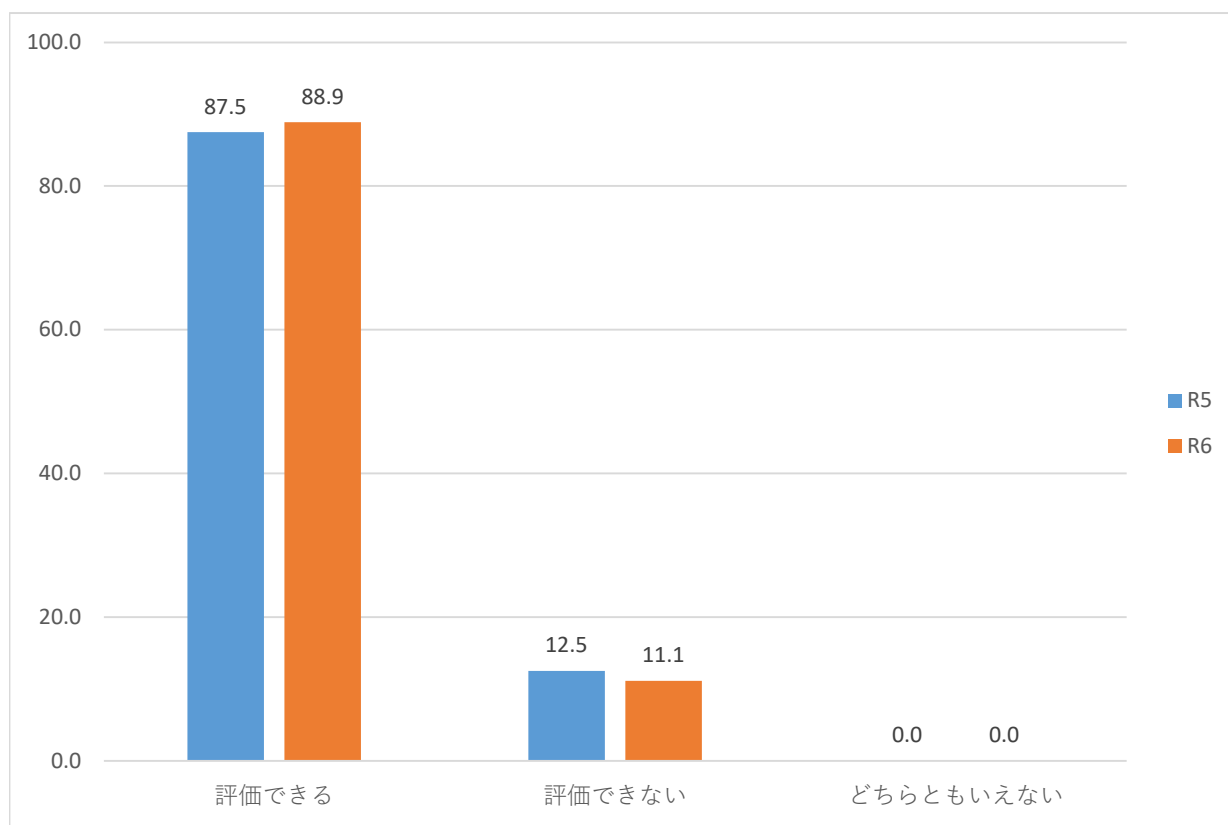
- ・管理職が常勤し、保育の援助や改善すべき点について、気づいたところはその都度伝え、指導する体制を構築した。

③保育士は、指導方法に対する指摘を助言として受入れ、保育の質の向上を図る。

- ・指摘された保育士は、真摯に受け止め、改善に努めている。

3 危機管理体制について

(1) 有事の指揮系統を確立する。



(人数)

	評価できる	評価できない	どちらでもない			合計
R5	7	1	0			8
R6	8	1	0			9

①有事の際は、危機管理マニュアルを基に迅速で組織的な判断ができるよう、園長不在時は副園長、副園長不在時は保育主任、保育主任不在時は最長勤務者の指揮責任者を置き、早期に全職員が把握し、即時に対応する。

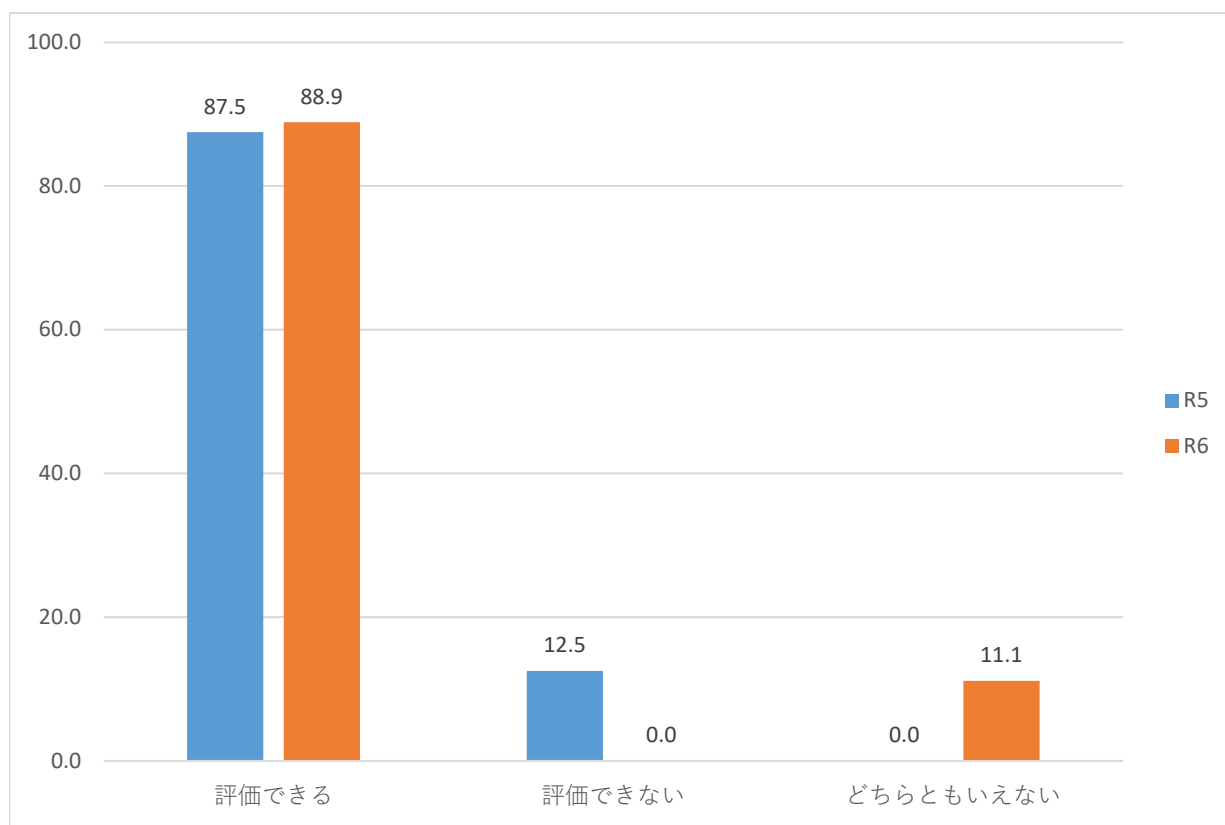
・有事の際、園長不在時は、園長代理が指揮を執る。園長代理が不在時は、保育主任が指揮を執る。保育主任不在時は最長勤務者の指揮責任者を置き、即時に対応してきた。

②危機的事象を想定した訓練を月1回以上実施し、対応方法等を職員全員で共有し、体制を確立する。

・災害・地震・不審者を想定しての避難訓練を毎月実施。警察による子ども安全教室（年1回）、消防署による防火教室（年3回）、県警ひまわり班による交通安全教室（年1回）実施。

3 危機管理体制について

(2) 各関係機関と連携した体制を構築する



(人数)

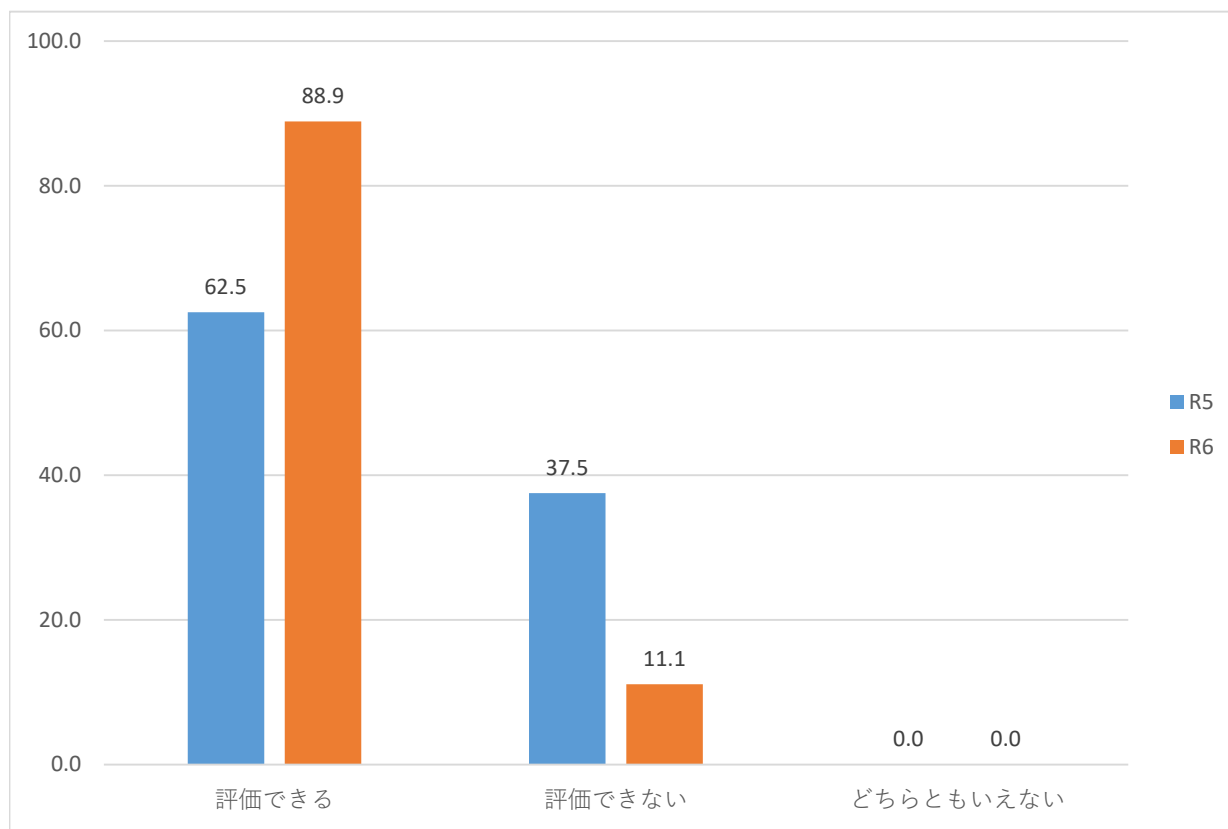
	評価できる	評価できない	どちらでもない			合計
R5	7	1	0			8
R6	8	0	1			9

非常事態の時は、高野山学園本部や町と迅速に情報共有を図り、対応する。

- ・非常事態の時は、高野山学園本部や町と迅速な情報共有に努めてきた。

3 危機管理体制について

(3) 未然に事故を防ぐ取り組みを実施する。



(人数)

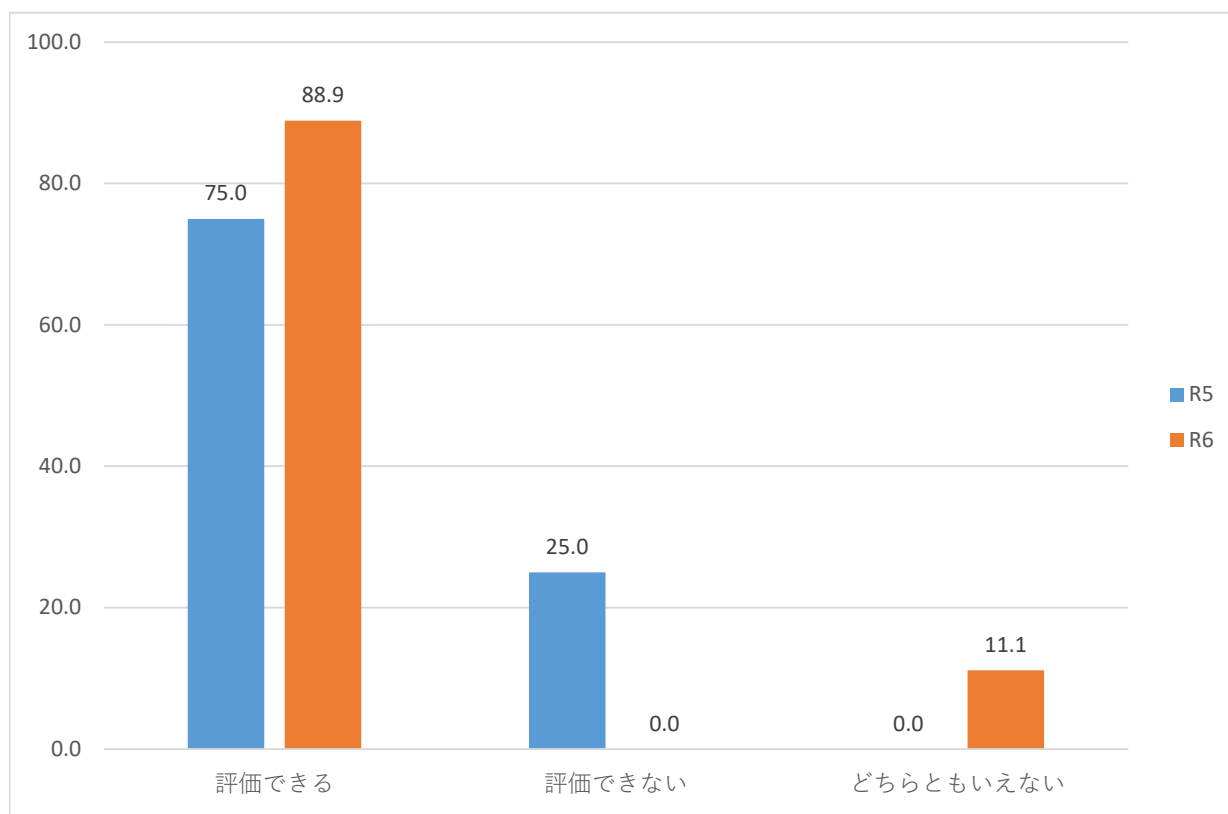
	評価できる	評価できない	どちらでもない			合計
R5	5	3	0			8
R6	8	1	0			9

ヒヤリハットがあった時は、当事者または目撃した職員が、すぐに指定の用紙にメモをとる。そのメモ（いつ・どこで・誰が・どうなったのか）を保育の振り返る時間を活用し、ヒヤリハットを1週間以内に全職員で共有する。共通した認識・理解のもと意見交換や検証を行い、今後の事故防止とより良い保育を目指すため助言し合う。

・ヒヤリハット報告書を活用し、職員会議や振り返り時に共通認識を持ち、事故防止に努めている。

4 職場の環境整備について

(1) 安全な園運営のため、職員の配置体制を見直す。



(人数)

	評価できる	評価できない	どちらでもない			合計
R5	6	2	0			8
R6	8	0	1			9

①全クラス2名以上の職員配置をする。

- ・今年度は1名の男性職員を中途採用できた。

②令和5年度から有資格の管理職を採用し、保育士の保育指導を徹底する。

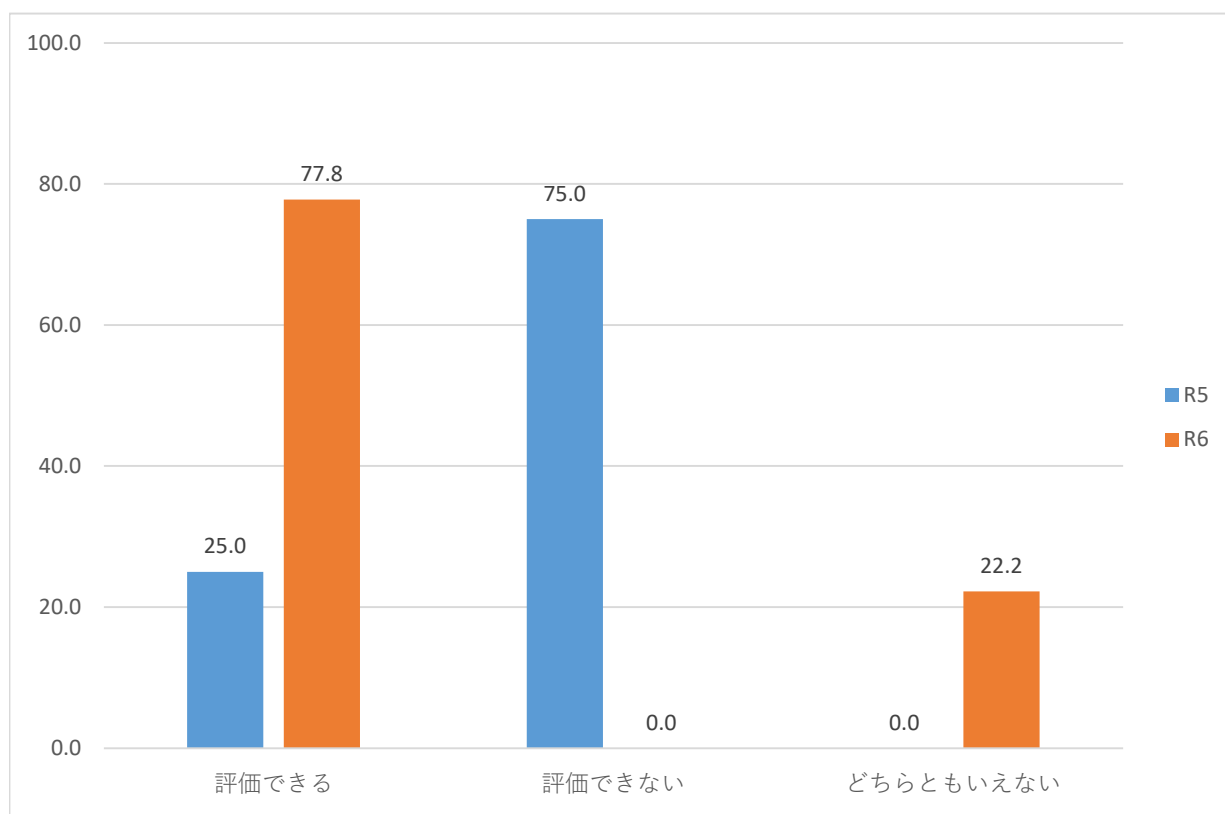
- ・有資格の園長代理を配置し、保育指導の充実に努めている。

③令和5年度から看護師を採用し、保育士と協働して、子どもの健康管理や保健指導などの充実を図る。

- ・看護師を配置し、子どもの健康管理や保健指導の充実に努めている。

4 職場の環境整備について

(2) 保育士等職員の定着を目指す。



(人数)

	評価できる	評価できない	どちらでもない			合計
R5	2	6	0			8
R6	7	0	2			9

①人事評価制度を取り入れ、設定した保育目標の達成度を年2回確認する。

- ・面接等で保育の目標や業務に対する思い、自己評価について、聞き取りを行った。

②園独自の研修プログラムや園外研修の受講を計画的に実施する。

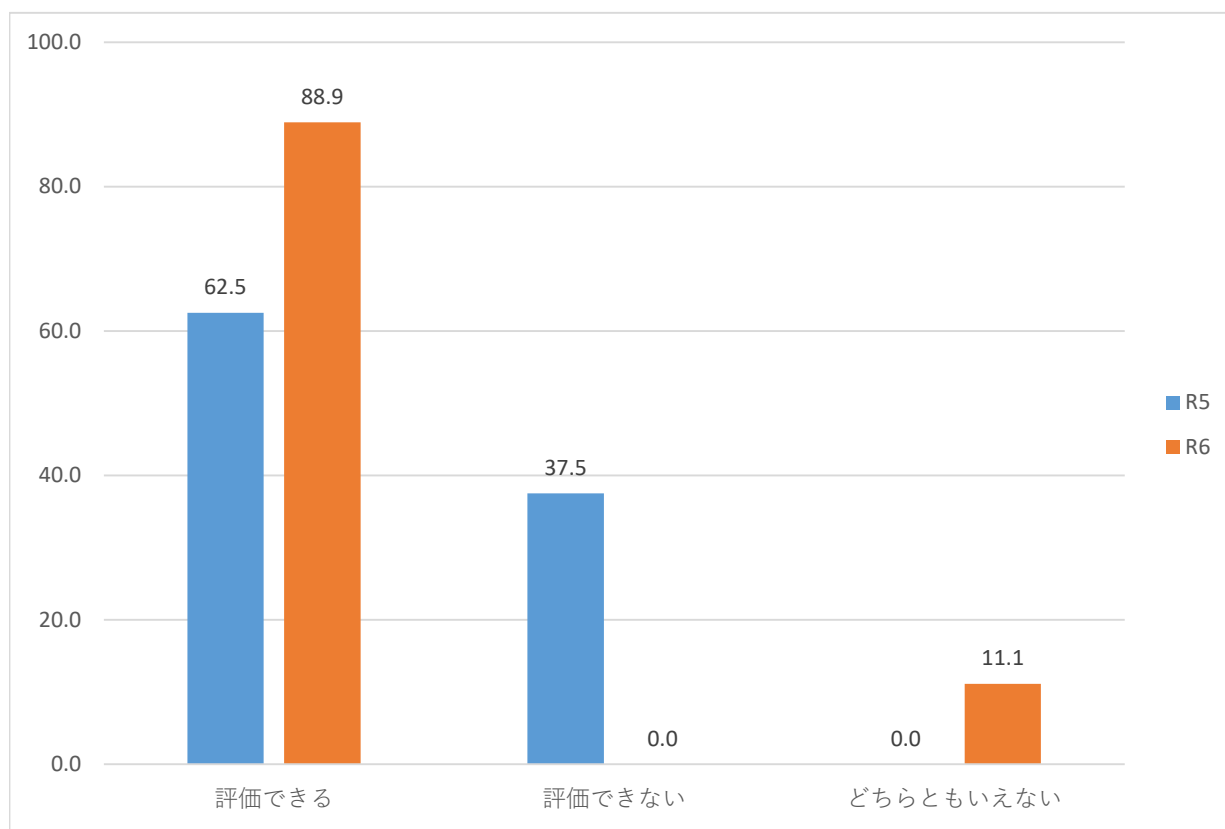
- ・保育内容についての園内研修、0歳児研修を行った。また、看護師による嘔吐物の処理や感染症について、子どもの発熱時やけがの対応、消毒や投薬について研修を実施した。

③職員の処遇改善や職場環境の整備を推進するため、就業規則を見直す。

- ・処遇改善の整備が進み職員への手当てが支給できるようになった。

4 職場の環境整備について

(3) 組織的な対応への取り組み。



(人数)

	評価できる	評価できない	どちらでもない			合計
R5	5	3	0			8
R6	8	0	1			9

①組織としての人員配置、職員の役割分担を明確にし、「仕事」、「職場」としての良好な人間関係を構築する。

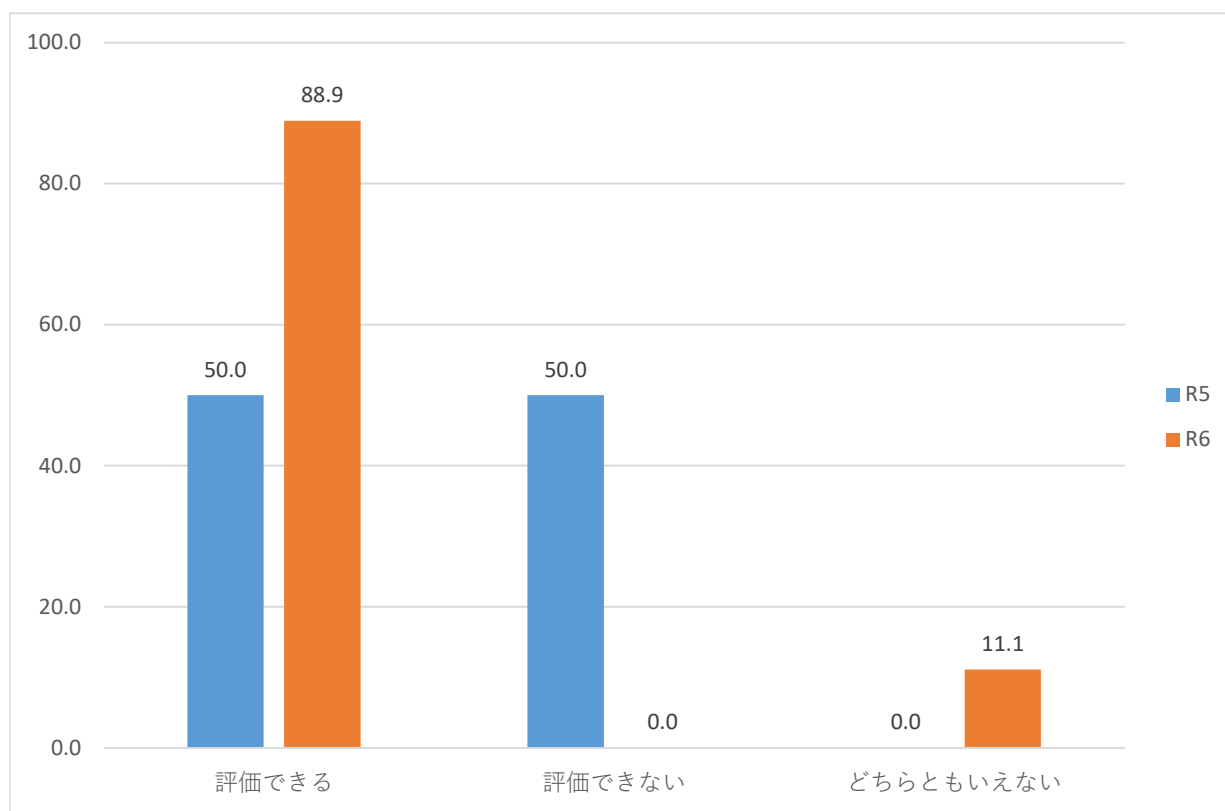
- ・職員間で話し合う機会を持ちながら良好な人間関係の構築に努めてきた。

②保育主任が園全体を見定め、保育体制について適時配置を行う。

- ・保育主任が中心となりシフトの配置を行うなど、組織の中の役割分担を決め運営を図ってきた。

4 職場の環境整備について

(4) 保育士間の信頼関係の構築に向けた取り組み。



(人数)

	評価できる	評価できない	どちらでもない			合計
R5	4	4	0			8
R6	8	0	1			9

①保育士は他の保育士の模範になるよう心掛け、職員間の信頼関係を築けるように意識する

- ・互いを尊重し、感謝の気持ちを忘れずに信頼関係を築くよう努めている。

②保育士は保育士同士で話やすい職場環境を構築するため、互いを尊重し、改善に向けた助言・指摘を受け入れ、誇りとやりがいをもって前向きに取り組む。

- ・助言や指摘を受け入れ、前向きに取り組む努力をしてきた。

③保育士は、個々の意識を高めることを目的に、職員会議や保育の振り返りの時間を活用し、月1回以上保育への心がけや目標を言葉に出して確認する。

- ・各々の保育に対する思いを言葉に出して確認している。

5 その他

複式学級でもかまわないとの意思表示をお願いします。

最後に出た玄関の問題は重要であると思う。
費用も発生すると思うが、何らかの対応は必要ではないか。
先生方が注意されているとは思いますが…

オートロックの意見がありましたが、暗証番号を入力出来るシステムにし、保護者に伝達しておけば、どうでしょうか。
以前、お世話になっていたこども園はそのようなシステムを採用していました。

園長代理を中心とした園の改革への努力が見られる。
保育、幼児教育については他の園の取り組みを参考にしたり、園外の研修を積極的に活用し、業務として参加させるようにすべき。
保育士自身が、良い保育を観たり、勉強することをしっかりやってほしい。
職員の処遇改善のための人員確保も大切であるが、保育補助も含め、保育士個々のスキルアップが重要であるため、その方策を立て、取り組んでいただきたい。
子どもたちの想像力をかき立てるような遊び道具、環境設定を。

昨年とちがい子供たちの表情、職員の表情が明るく、笑顔も多く、園運営がスムーズで良好な保育実践となっている。園長代理が目指す保育への思い、職員への思いが少しずつではあるが伝わりつつあり高野山こども園の保育への基礎固めができてきている。
また、昨年まで事務全般を任せる人材がなかったが、事務長を雇用し、園長代理の負担が減り保育や園運営に時間を使え、役割分担等運営体制が充実してきている。しかし、今年度園児数の少ない学年を他の学年と合同クラスを編成するなど工夫がみられたが、今後園児の少数化が予測されることからクラス編成の工夫や保育内容を考えていく必要があると思われる。

「まなびの杜」が完成し、高野町が目指す子供たちに豊かな発達を保障する場、教育環境が充実した。こども園、小中学校、教育委員会で連携会議を月1回開催され始め、教育システムは前進した。今後より充実するためには、高野町の大きな課題、出生数の少なさ、それに伴う集団の保障という大きな課題がある。
この課題に立ち向かうため、高野町の行政、教育委員会、健康課、介護福祉課など全町あげて連携して取り組んでいただきたい。
高野山こども園のこの2年間の保育の改善、充実は、こども園職員の努力はもちろんの事、行政である高野町役場、高野山学園、そして、こども園保護者などすべての人の支援協力によるものであることも評価している。

常勤の園長代理が着任し、以降園全体を俯瞰的にとらえることが可能となり、課題や改善の方向が明らかになったと思います。
有識者の意見や提言を受け、目標や指導計画について発達年齢に即した長期、中期、短期の指導（保育）計画が作成されました。今後の検証や見直しを期待します。
職員、関係者の皆さんがチームとして日々奮闘されていることが伝わってきました。引き続きプロとしての自信と誇りを持ち、相互の意思疎通を図って下さい。
出生数が少なく、園児が減少傾向ですが、そうした状況下、保育の質の向上と充実に向け、独自に特色のあるこども園を目指していただきたい。併せて内外への情報発信、PRをお願いします。
運営面において、働き方改革を進める一方、各種ハラスメントについての研修や、町当局や関係機関との連携協力をさらに進めて下さい。

坂頭園長代理が軸となって園の運営が変わってきているように思えます。事務長との連携もスムーズで保護者会の資料の事についてもすぐに対応していただいたり保育、保育の環境につきましても良くしてくださっていると感じます。先日、お話しさせていただいた鍵の件につきましては、保護者会としましては、防犯、防災、保育環境のそれぞれの観点から検討いただき解決したいと考えました。どうぞ、よろしくお願いいたします。園の先生、職員様が保育に集中できるよう、お願い致します。

数年前に比べ、こども園の体制や運営の改善に積極的に取り組まれている様に感じられます。今度とも新しい園長のもと、この流れを止める事なく、誰からも愛される、こども園を目指し頑張ってください。

令和5年度に改善された上にもう一步前に進み改善・努力されていることが園の取り組み内容で理解する事が出来る。

また、保護者アンケートではよい結果が多く令和5年度より6年度の方がよい結果であった。このことは上記の事を明確にしている。

ただ、アンケートの問5、問14の結果として不満という解答が気になる。アンケートなので不満内容がどんな内容か把握するのはむずかしいと思うが、「なぜ不満なのか」理由がわかれば、良いこども園になるのではと考える。

「12月に園を訪問する」前回より先生方がいきいきとして笑顔が増えたと感じた。戸外で外部講師より運動遊びをしていた。少し気になる子供に一人の保育士が寄り添っていた。もう一人の保育士が他児達を保育している。自然と異年齢児保育の形が出来ていた。自然と異年齢児保育が出来ている事は保育士同士のコミュニケーションも良くなったと思う。保育士・多くの書類も0歳から5歳の全体的計画もきちんとたてられている。保育要録、年間月間週間指導計画、日案もたてられている。その中で日案が少し気にかかる子どもの活動のところで保育士が決めてしまっている。主体的に遊ぶためには先に環境構成が大切である。一度見直す必要があると思う。

新体制でしかも2年目でここまで改善されたことはすばらしいと思う。

「学びの杜」が出来、こども園・小学校・中学校と行政・町全体で子供を育てていこうとする事業は高野山だからできることだと思う。

「子供が減少している状況」ホームページなどで高野山こども園をもっと知ってもらえるように外に向けて発信し、一人でも多くの子供が高野山こども園へと願う。